



**ニッポンの事業競争力を強くする！** 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要

各グループ概要

取組紹介

イベント

事務局通信

メディア掲載

report: 大日本スクリーン製造株式会社

**公開BCP訓練、その先にあるものは？**



グループ担当  
 コンサルタント  
**高橋 篤史**

**連** 日の猛暑も和らぎ、秋の兆しが見えだした東京ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、大日本スクリーン製造株式会社様にてBCP訓練が実施されるということで、新幹線米原駅から近江鉄道を乗り継ぎ、彦根地区事業所にお邪魔しました。

**広** い会場に、ざっと見て50名以上が出席されていることにまず驚きました。パーティションで2か所に区切られたエリアに、それぞれ本社対策本部と現地対策本部(6チーム)が設置されています。また両エリアからアクセスできる場所に、状況付与や質問に対して情報提供を行う「ダミー機関」があります。このほかオブザーバー席が随所に設けられ、グループ企業の方も見学できるようになっており、オープンな印象を受けました。昨年すでに発災当日を想定した初動訓練が実施されていますので、今回はその続編の位置づけで、発災2日目から3日目までのシミュレーションを行います。

**「B** CP訓練はいわば演劇のリハーサルのようなものだが、本番(災害)はシナリオ通りには進行しないので、アドリブを効かせながら進めてほしい。オブザーバーの方もそれぞれの立場で一緒に考えていただきたい。」

**全** 体のコーディネートを務めるコンサルタントのガイダンスを皮切りに、訓練がスタートしました。事前にかかなりの時間をかけ、各チームごとに入念な分析を経た想定被災データを準備しており、これに基づいて本社対策本部と現地対策本部との情報共有、意思決定、指示を行うブラインド訓練です。対策本部間のやりとりはWeb会議システムを使用し、安否確認、被災状況の把握などを通じて、徐々に全体像が見えてきました。2日目のシミュレーションが終わった時点でいったん集合し、簡単な振り返りを行った後に3日目スタート。オブザーバーも席を立ち、各チームで何が進行しているのか、熱心に聞いています。やがて本社対策本部の方針がほぼまとまり、約2時間半のシミュレーションが終了しました。

**休** 憩をはさみ、各チームから気づきの発表、コンサルタントからのアドバイス、最後に総括としてBCP委員長、本社対策本部長より全体の講評がありました。アドバイスの内容は「人数把握の手順や報告用フォーマットなど、事前の準備を工夫する」、「質問は意図を明確にし、欲しい情報が何か相手に伝わるように行う」、「指示は行動レベルで具体的に出す」、「外部に出す情報は慎重にレビューする」、「先を見越して、現在の状況が事業継続にどのような影響を及ぼすのかを共有する」など、いずれも対策本部を運営する上の貴重なポイントで、次回の訓練に活かされることでしょう。オブザーバーも含め、参加された



皆様が課題を共有し、改善への方向性を見出されたことと思います。

**見** 学させていただき、訓練をオープンにすることで一気に全体の問題意識を高める方法が非常に有効であると感じました。半導体サプライチェーンのレジリエンス向上を目指す大日本スクリーン製造様の取組ですが、その実現に向けて確実に歩を進められているようです。👏👏